

国家戦略特区

「外国医師の診察の業務解禁」について

学校法人聖路加国際大学
聖路加国際病院

聖路加国際病院における外国医師の診察の業務解禁の要望

(1)どの国の外国医師が必要か？

→米国医師と英国医師、及びロシア医師等が必要

2011年の東日本大震災の影響を受け都内23区の外国人登録人口は同年初に比べ減少したが、当院の国際化された環境で受診を希望する外国人患者は増加した。昨年(2013年)度の当院の外国人外来患者数は18,645名と2011年度に比べ5,081名(増加率年18.5%)増え、外国籍患者比率は2.8%と2011年度に比べ0.6%増えた。国別では中国、米国、韓国、英国の患者が多かった。中国、韓国の場合は日本語が理解できる在日等の患者も多く、同国の医師に拘らない傾向がある。米国、英国の場合は、日本語が完全に理解できる患者は少ないが、より質の高い医療を希望する患者が多いため、コミュニケーションが容易な同国の医師に対するニーズは高い。さらに、質の高い医療を求めて日本語が理解できないロシアの患者等も着実に増加しており、同国の医師に対するニーズも高い。このことが、当院での米国医師と英国医師、さらにはロシア医師等の診察の業務解禁を要望する理由。

(2)受け入れる外国人医師の人数枠は？

→米国医師人数枠3名、英国医師人数枠2名、ロシア医師等人数枠2名

2016年度の当院の外国人外来患者は、全体で26,923名、うち米国6,572名、英国1,405名、ロシア979名と予測されることから、米国医師人数枠3名、英国医師人数枠2名、さらにロシア医師等人数枠2名を希望したい。なお、現在当院は教育、研究に参与している米国医師免許を有する米国医師2名、医事課国際係で外国人向け医療コーディネーターをしているロシア医師を雇用しており、二国間協定等の外国人医師受け入れ環境が整えば、これらの医師を米国医師及びロシア医師として受け入れることも可能。

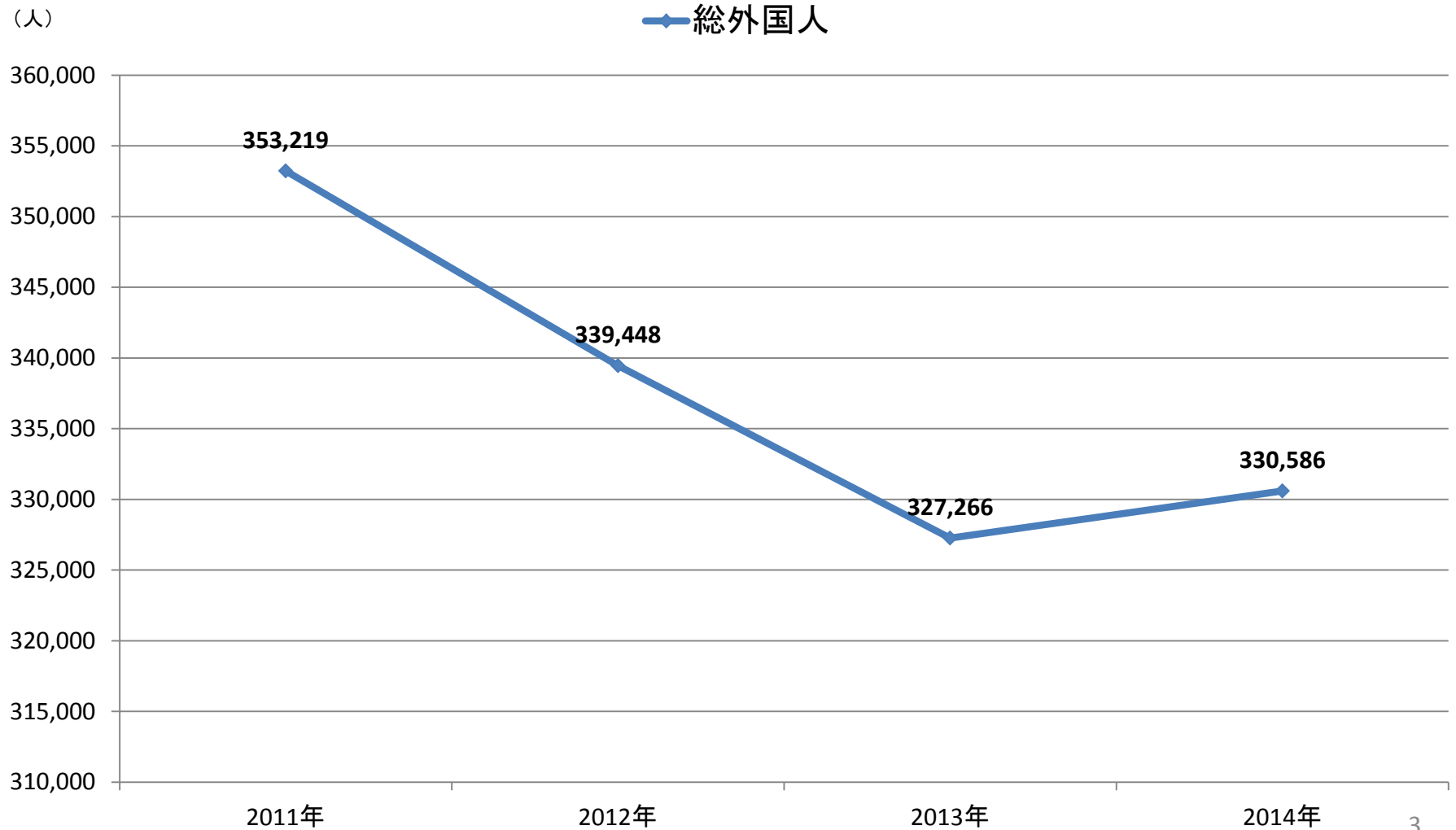
(3)特区の中のどの地域で、いつ外国医師の診察を開始するか？

→東京都中央区と千代田区で、二国間協定締結後可及的早期に開始

都心3区(千代田区、中央区、港区)は国際ビジネスの中心であり、昼間時間帯の外国人ビジネスパーソンも多い。当院では、中央区明石町の本院と千代田区大手町の当院附属クリニック聖路加メディローカスで二国間協定締結後可及的早期に外国医師の診察を開始する予定。

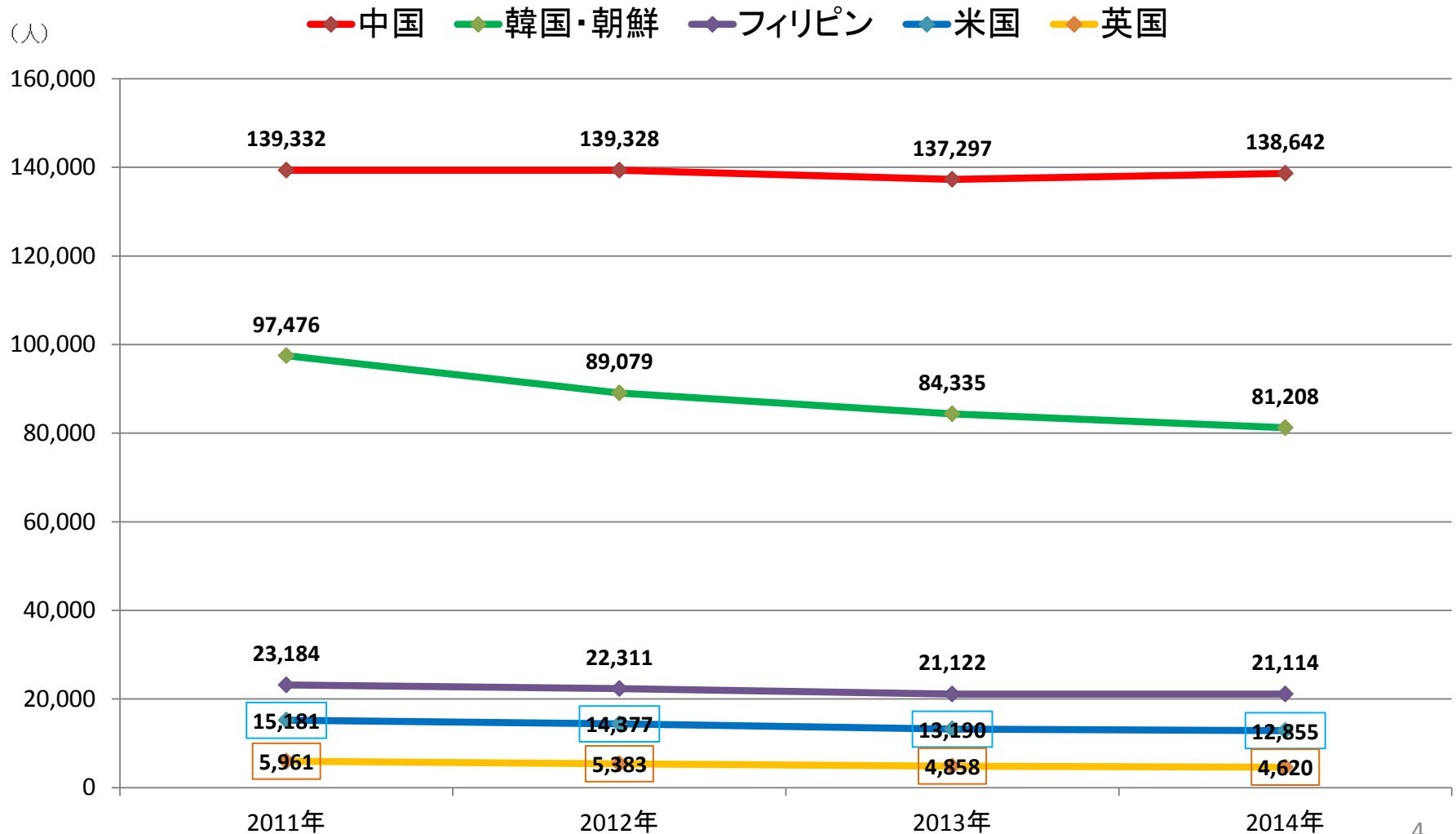
①都内23区外国人登録人口年次推移 (2011年～2014年:1月1日時点)

出典:東京都ホームページ 外国人人口より作成



②都内23区主要国外国人登録人口年次推移 (2011年～2014年:1月1日時点)

出典:東京都ホームページ 外国人人口より作成
(ロシアはその他に纏られている為、個別データ取れず)



③ 聖路加国際病院 外国人患者数年次推移と比率

外来受診延べ患者数(実績:2011~2013年度、予測:2014~2016年度)

